



校種間連携で " つながる学び "

幼稚園、小・中・義務教育学校、高校、特別支援学校や大学などの学校種間の連携を通じた学びの連続性について、生徒たちの視点から紹介します。

南丹美術工芸パートナーズスクール事業

母校でのパートナーズスクール事業を通して

平成29年9月、千代川小学校5年生と亀岡高校普通科美術・工芸専攻1年生との南丹美術工芸パートナーズスクール事業を2回にわたって実施しました。

今回は、千代川小学校の卒業生である美術・工芸専攻1年生3名に、このパートナーズスクール事業を通じて学び経験したことについて、話を聞きました。



宅間紗矢さん (美術・工芸専攻 1年生)

久しぶりに母校へ戻り、宅間さんは変わらない校舎の風景を懐かしく感じていました。

子どもたちに指導する中で、『『銀色の作り方を教えて。』と言われて、色を混ぜて作りましたが、『色が違う。』と言われました。私たちの思っている色と子どもたちの考えている色は違うんです。こちらが思っている色を伝えるのは本当に難しいですね。』と、伝えることの難しさを実感していました。

「人に何かを伝えたり、違う年代の子どもとコミュニケーションを取ったり、たくさん経験をしましたが、絵が上手くても下手でも、子どもたちが楽しかったなという思いになってくれたら嬉しいです。」と話していました。



川端さんは、もともと小さい子と話すのは得意な方ではなかったようですが、母校に帰って気持ちも高まって、子どもたちにも自然に話しかけることができたといいます。

「透視図法など私の知っていることをアドバイスをすると、小学生は素直に聞いてくれました。今まで接する事の少なかった小学生に教えることが思ったより上手くできました。人に教えることに対して、少し興味が出てきました。」と、新しいことへの意欲を見せていました。



川端菜々美さん (美術・工芸専攻 1年生)



岩井さくらさん (美術・工芸専攻 1年生)

岩井さんは母校について、「自然に入ることができました。知っている先生もおられて落ち着いて子どもたちと話すことができました。」と話してくれました。

教える子どもの中には、絵を描くことが苦手ななかなか集中できない子どもがいたようで、「紙に図を描いて示したり、『モチーフとなる校舎をよく見て面白いところに注目してみよう』とアドバイスしたのが良かったみたいで、黙々と取り組んでくれました。」と上手く教えることができたことに手応えを感じていました。

最終日には、「小学生の方から声をかけてくれたことが嬉しかった」と、繋がることのできた喜びを話していました。



小学校と高校で経験したパートナースクール事業

平成 24 年度に吉川小学校 6年生で経験したパートナースクール事業と、その後、平成 28 年度に同じ事業で城西小学校の児童へ教える立場になった亀岡高校 普通科美術・工芸専攻 2年生3名に話を聞きました。



出原加奈さん (美術・工芸専攻 2年生) ～先輩方の絵を描く姿に憧れ～



出原さんには、パートナースクール事業の思い出が2つあります。

一つめは、亀岡高校を訪問した際に油絵に出会ったことでした。先輩方が、下描きを描かずに絵の具であたりをとって制作している姿がとってもカッコよく見え、「いつか私も下描きを描かずに絵を描けるのかなあと、私も油絵を描いてみたいなあと。その思いが今に繋がっているんじゃないかと思います。」と思い出していました。

二つめは、先輩方が小学校に来てくれた時、課題となっていた木版画とは全く関係の無い、夏休みの課題だった図画工作の「機関車の絵」を褒めてもらったことでした。このことについて、出原さんは「一生懸命に描いた作品を褒めてもらって、やっぱりすごく嬉しいことでした。」と、そして「私が亀岡高校 普通科美術・工芸専攻で今、勉強しているのは、小学校での経験がきっかけになりました。」と話していました。

大西美緒さん (美術・工芸専攻 2年生) ～亀岡高校の先生からの一言～

大西さんは、パートナースクール事業で亀岡高校の先輩方が小学校に来た時のことを「先輩方は面白おかしく、人見知りだった私に声をかけてくださり、楽しく制作することができました。」と話してくれました。

その時、引率していた亀岡高校の先生から「よかったら、亀岡高校の美術・工芸専攻に来ない？」と言われ、「今思えば、その先生の言葉もあって中学校に入ってから進学する高校は決まっていた、迷いは無かった。」といます。パートナースクール事業で城西小学校に教えに行くことが分かった時、自分が教える側になったことに驚くと同時に、「当時の先輩のように楽しく教えることができるか」と不安の気持ちにもなったようですが、「最終日には、子どもたちから感謝とお礼を言われて一番感動しました。美術・工芸専攻でしか味わえない感動でしたし、小学生の私に声をかけてくれた先生にとっても感謝しています。」と充実した様子でした。



廣瀬詩音さん (美術・工芸専攻 2年生) ～優しい先輩が印象的でした～

当時の亀岡高校の先輩方について廣瀬さんは、「分かりやすく教えてくれて、とても優しい先輩でした。良いところは褒めてくれたり、工夫したほうが良いところは声をかけてくれたりして嬉しかった。」という印象を持っていました。

逆に小学生に教える立場となり、気合を入れて城西小学校へ行ったのですが、緊張してあまりしゃべることができず、どうすればいいのかわからないうちに初めての交流が終わってしまいました。最終日は積極的に話しかけて、世間話するなど小学生と打ち解けることができたようです。「接し方がわからなかったが、自分なりに頑張って話しかけて、教えることができました。

私自身にとってもとても勉強になりました。」と自分の自信にも繋がっているようでした。



南丹教育局ホームページ
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

南丹教育局

検索

